

平成 19 年度第 1 回科学推進専門部会 議事録（案）

日時：2007 年 5 月 7 日(月) PM13：00～16：30

場所：独立行政法人海洋研究開発機構 東京事務所 大会議室

出席者

専門部会委員：部会長／兼 地下圏微生物分科会長 丸山明彦(産業技術総合研究所)

【地球内部分科会】分科会長：小原泰彦*(海上保安庁) 委員：廣野哲朗*(大阪大学)

【地球環境分科会】分科会長：長谷川卓(金沢大学) 委員：亀尾浩司(千葉大学)、沢田健(北海道大学)、
伊藤慎*(千葉大学)、多田隆治*(東京大学)

【地下圏微生物分科会】委員：稲垣史生(海洋研究開発機構)、砂村倫成(東京大学)、奈良岡浩(岡山大学)

執行部担当：山崎俊嗣(産業技術総合研究所)

事務局：山田 泰 加賀谷一茶 梅津慶太

オブザーバー

CDEX：川村義久 久保雄介 倉本真一

SPC 委員：山本啓之

欠席者

【地球内部分科会】田村芳彦*(海洋研究開発機構) 富士原敏也*(海洋開発機構) 道林克禎(静岡大学)

【地下圏微生物分科会】福井学(北海道大学)

* 兼 SSEP 委員

議事次第

1) 会議の概要説明

2) SPC報告、各種委員会報告

3) その他の報告

(南海トラフ等直近の航海準備状況、向こう1-2年余りの各航海乗船者の公募見通し、IODP関連の研究予算動向)

4) IODP掘削プロポーザル支援予算：今年度課題の審査について

5) IODP掘削プロポーザル支援予算：昨年度課題の評価について

6) IODP掘削プロポーザル支援：ワーキンググループ設置について

7) SSEP委員の今後のローテーションについて

資料

1. SPC報告について

2. プロポーザル作成支援について

2-1募集要項

2-2契約及び経費の執行について

2-3選考方法

2-4課題チェックリスト

3. SSEP委員ローテーション表

4. alternateリスト

4-1. 潜在alternateリスト

4-2. 過去SSEP委員リスト

参考資料 USIOスケジュール

参考資料 2007年度J-DESC IODP部会体制

参考資料 執行部担当部会

議事録

1) 会議の概要説明（丸山部会長）

会議の概要について、丸山部会長より説明がなされた。

また、多田SSEP共同議長から、共同議長はロードが大きく専門部会員を兼ねるのは難しいため、専門部会のリエゾンとして位置づけるよう要請があり（備考：今後ともそのようにするという部会としてのルール化までには至っていない。とりあえず、今回の要請に基づく措置という位置づけ）、丸山部会長、長谷川分科会長も同意見であった。専門部会としては候補者案を持っており、専門部会から執行部へ推薦という形でよいか、あるいは執行部主導で後任を決めるか、執行部へ確認することとなった。

2) SPC報告、各種委員会報告

➤ SPC報告（山本委員）

山本委員より資料1に基づいて、SPCの報告がなされた。

- ・ 2007年3月4日～7日に大阪で開催。
- ・ 燃料代の負担増等の理由により、経費削減への対応が求められている。
- ・ 次の10年計画の準備がスタートした。
- ・ 18提案について審議。このうち12提案をOTFへ受け渡した。
- ・ 今回の会議で、北里洋氏と野村律夫氏が退任した。後任は8月の会議で決定される予定。

➤ 各種委員会報告（山崎執行部委員）

配布資料に基づき、山崎執行部委員より専門部会からの報告・コメントについて説明がなされた。

- ・ IODP部会の新執行部の陣容と主なポリシーの紹介がなされた。
- ・ 事前調査検討専門部会：プロポーザル作成支援のためのwebサイトの開設準備中。
- ・ 科学計測専門部会：乗船研究者の推薦プロセスに関して、科学推進部会にて検討してもらいたい。

3) その他の報告

南海トラフ等直近の航海準備状況、向こう1-2年余りの各航海乗船者の公募見通し、およびIODP関連の研究予算動向について、参考資料に基づき、CDEXの久保・倉本両オブザーバーより報告がなされた。

➤ 南海トラフ等直近の航海準備状況（倉本オブザーバー）

- ・ 現在「ちきゅう」はオーストラリアにて試験掘削中。その後、9月にNanTroSEIZE stage 1の航海が始まる。

➤ NanTroSEIZE stage 1のスタッフィングについて（倉本オブザーバー）

- ・ J-DESCランキングと、今回のCDEX乗船研究者招聘案とで、人選が大きく食い違っているLegがあることが部会委員から指摘され議論された。乗船研究者のスタッフィングは、最終的な決定の裁量はIOとそのコーチフに委ねられていることについては、部会から理解が示されたが、今後このようなランキングの大きな食い違いが起きた場合は、IOに説明を求めたいとの意見が出された。
- ・ 上記を踏まえ、今後のランキングは順位付けでなく、海外のPMOと同じく、グルーピング(Aランク、Bランクというように)という形で推薦を行うことがふさわしいのではという議論があった。
- ・ 日本人学生の乗船が少ないことが指摘された。

➤ その他の航海について（倉本オブザーバー）

- ・ NanTroSEIZE Stage2の乗船研究者募集が近々始まる予定。
- ・ USIOは暫定スケジュールで航海を予定しているが、予算状況等により変更になる可能性がある。

➤ その他の予算動向について（丸山委員）

- ・ IODP関連で、現在獲得可能な国内予算状況等について説明と議論がなされた。
- ・ これらも踏まえた上で、部会としてIODP掘削プロポーザル支援予算の審査にあたる必要がある。

4) IODP掘削プロポーザル支援予算：今年度課題の審査について

資料2-1に基づき、事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 本支援課題の申請件数が、現在事務局にて把握しているもので2件のみであると報告された。
- ・ SSEPで審査されているPre ProposalのLead Proponentに対し、個別にメールを送り、課題の提出を促すことが事務局に要請された。

5) IODP掘削プロポーザル支援予算：昨年度課題の評価について

IODP国内科学計画委員会、執行部を通じて専門部会に要請があり次第対応する。

6) IODP掘削プロポーザル支援：ワーキンググループ設置について

IODP国内科学計画委員会、執行部を通じて専門部会に要請があり次第対応する。出されたもののスタックしてしまったプロポーザルの原因を調べるなど失敗の教訓を学ぶことと、書くべきテーマや人を発掘する／絞り込むため、専門のワーキンググループの設置およびワークショップ等の開催が必要であり、そのための経費が必要。J-DESCの予算？ CDEXの援助？（CDEXから、必要なものは上げてほしいと発言あり）

7) SSEP委員の今後のローテーションについて

事務局より資料3に基づき、標記の件について説明がなされた。

- ・ 多田共同議長の任期は今年11月まで。後任（11月SSEPに出席）の選出が必要。
- ・ 本件は、科学推進部会で候補を出すのか、J-DESC執行部が中心となって人選するのか、執行部に意向を確認する。
- ・ 伊藤・広野両委員について、ローテーション表では今年の11月をもって退任となっているが、この場合、一度に多くの委員が交代となるため、5月の委員会を持って退任していただけるよう要請があった。両委員は了承。今後は、コンフリクトの際のオアターナティブ委員等としての協力を強く要請した。
- ・ 5月の会議でヨーロッパからの共同議長が交代する。その後任の専門分野によっては、多田さんの後任の専門分野を考慮する必要があるがでてくる。多田共同議長がヨーロッパの後任候補についての情報を聞いて連絡。

#7 SSEP 事前打合せ 議事録 (案)

日時：2007年5月7日(月) PM16:30~17:30

場所：独立行政法人海洋研究開発機構 東京事務所 大会議室

出席者

SSEP 委員：多田隆治(東京大学) 伊藤 慎(千葉大学) 黒田潤一郎(海洋研究開発機構)
鈴木 淳(産業技術総合研究所) 高澤栄一(新潟大学) 竹内美緒(産業技術総合研究所)
西 弘嗣(北海道大学) 山口耕生(海洋研究開発機構)
SSEP Alternate：熊谷英憲(海洋研究開発機構)

CDEX：久保雄介／倉本真一

事務局：山田 泰／加賀谷一茶／梅津慶太

欠席者

SSEP 委員：安間 了(筑波大学) 田村芳彦(海洋研究開発機構) 木村純一(島根大学)
高井研(海洋研究開発機構) 廣野哲朗(大阪大学) 富士原敏也(海洋研究開発機構)
SSEP Alternate：石渡明(金沢大学)
SPC 委員：山本啓之(海洋研究開発機構)
執行部担当：山崎俊嗣(産業技術総合研究所)

議事録

(プロポーザルに関する個別の議論は省略しています)

- プロポーザルナンバーについて
 - ・ プロポーザルナンバー”MP”は Mission Proposal.
 - ・ プロポーザルナンバーの右についている番号(Full の後の数字)は SSEP でのレビュー回数.
 - ・ レビュー回数が大きいものは、審査期間が 2 年を越えるため、watchdog が変わっている。watchdog が変わってもレビューやアドバイスは consistent でなければならぬため、Lead Proponent は、そのヒストリーをよく理解しておくことが必要.
- SSEP での Review Process

solid earth, paleoenvironment, fault/fluid に分かれて、Lead watchdog による各 30 分前後の個別のプレゼンとディスカッション (Breakout session) を行った後、全体でディスカッションを行う。

 1. Lead watchdogによるプレゼンの後、Lead watchdog, 2nd, 3rd, 4th, 5thと順に意見が聞かれる。
 2. Breakout session の後に、一件につき 5 分程度で全体に紹介(ディスカッションの結果、どう評価するかなど)をする。
 3. 全体でのディスカッションが終わった後で、他の人の意見を加えた形でレビューフォームを書き、他のすべての watchdog の同意を得て、最終日に提出する。
 - ・ Lead watchdog のプレゼンは論文紹介のイメージ。Full Proposal だと質疑応答を含めて 30 分くらい。今回はプロポーザルの数が多いため、25 分くらいになるかもしれない。発表時間は目安 15 分くらい。Pre/APL Proposal の場合はもう少し短く、10 分くらい。
 - ・ プレゼンのはじめに、そのプロポーザルのヒストリー(どの時点でどのようなクリティカルなコメントを受けてどう対処したかなど)を説明する(他の watchdog にヒストリーを理解してもらうためにも)。

- 時間配分の目安として、10分くらいで目的、ISPとの整合性、具体的な計画、サイトの情報を紹介。残り5分で評価できる点と問題点を述べる。
- Lead watchdogはBreakout sessionが終わったら、レビューフォームの下書きをしておく。
- 最初のうちは英語が早いなどでわからないことがあるため、わからなかったら必ず聞きなおして理解する。
- Lead watchdogが来ないことがたまにあるため、2nd watchdogの場合は(無駄になっても)代理発表の準備をしておく。3rd, 4th, 5thもおおよそその内容の把握をしておく。
- その他
 - 現段階の watchdog のリストは最終決定ではないので、専門性があまりに異なる場合は co-chair に言って変えてもらうことが可能(早いほうが対応はスムーズ)。
 - external review では、SSEP での評価が妥当であるかどうかを見る。
 - Mission Proposal は基本的に Breakout session でサイエンス中心に議論される。最終的には Mission としての妥当性も含まれるため、全体のディスカッションで説明できるようにしておくべき。
 - Mission と CDP は別。完全に同じではないが、オーバーラップしている部分かなりある。区別(定義の理解)は何回か出席している人でも難しい。
 - プロポーネントに入っていないが、プロポーネントと同僚などの関係にある場合は申告する必要がある。所属グループが同じ場合など、COI に引っかかる可能性が高い場合は co-chair 全体に事前にメールで連絡、それほど近い関係にない場合(例えば JAMSTEC までの所属が同じなど)は当日申告すればよい。
 - 事前に Proponent とコンタクトは可能。